

194. 取り消し

195. 脳槽の RI による動態検査

福岡県立柳川病院 放射線科

矢野 潔 古賀 尚充

大牟田市立病院 脳外科

馬場 繁行 林 隆

久留米大学 放射線科

尾関巳一郎

我々は、 ^{169}Yb DTPA を用いて脳槽シンチグラムを行っているが、この際に経時的に採血し、血中の ^{169}Yb DTPA の量および経時的に採尿を行い、尿中の ^{169}Yb DTPA の量を測定した。脳槽シンチグラムと血中および尿中の ^{169}Yb DTPA の量の推移より脳疾患の診断の向上を試みると同時に、脳槽シンチグラムの解析を目的としたものである。

採血は ^{169}Yb DTPA を腰椎穿刺にて注入した後、10分、20分、30分、1時間、2時間、4時間、24時間、48時間、72時間に行った。採尿は、4時間後尿、24時間後尿、48時間後尿、72時間後尿をそれぞれ採尿した。

脳槽シンチグラムは、30分後、1時間後、3時間後、時には4時間後、24時間後、48時間後、72時間後、に行った。

血中濃度はほとんどの症例において、4時間で peak に達するが、中には24時間あるいは48時間で Peak に達するものもみとめられた。

Peak に達してあとかからはかなりゆるやかな曲線を書いて下降してゆくが、注入後より Peak までの間の曲線は急な立上りを示すが、これも一様の立上りではなく、2峰型を示すもの、あるいは階段状を示すものあるいは谷を示すものと、かなり変化を示すものがあるようである。これらの血中濃度曲線のパターンと脳疾患との関連について報告したい。